

2025年3月期 第2四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2024年11月8日

2025/03期 Q2累計 業績概要

■ 2025/03期 第2四半期累計は、前年同期比減収増益（赤字縮小）

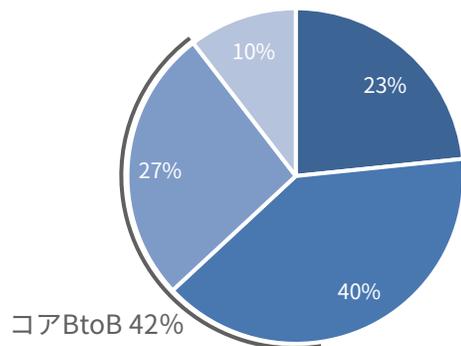
	2024/03期		2025/03期		前年同期比	(百万円)
	Q2累計	Q1	Q2	Q2累計		
売上収益	7,326	3,073	3,662	6,736	△ 590 (△ 8.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 欧米市場において、プレミアムオーディオ機器が順調に伸長する一方で音楽制作用オーディオ機器が苦戦、アジア市場においては総じて低迷した結果、全社は前年同期比減収
営業利益（△損失）	△ 47	△ 275	△ 7	△ 282	△ 236 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 減収に伴い営業損失拡大
税引前利益（△損失）	△ 357	△ 398	37	△ 361	△ 4 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 17百万円の為替差益が発生も前年同期比損失拡大 <ul style="list-style-type: none"> - 詳細は「金融収益（為替差益）の計上に関するお知らせ」（2024年11月8日発表）をご参照ください
四半期利益（△損失）	△ 368	△ 393	49	△ 344	+ 24 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比増益（赤字縮小）
資本合計	3,129			2,984	△ 145 (△ 4.6%)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比減
1株当たり親会社 所有者帰属持分	108.62円			103.59円	△ 5.03円 (△ 4.6%)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比減
自己資本比率	27.0%			26.2%	△ 0.8ppt	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比減
フリー キャッシュフロー	△ 266			19	+ 285	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比増（プラス転換）

2025/03期 Q2累計 セグメント別・地域別構成比

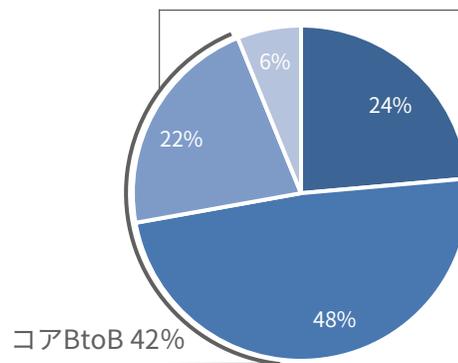
■ セグメント別

- 主に半導体市場向け計測機器の需要回復遅れによりBtoB事業は△2%減収も、構成比は+3ppt増加

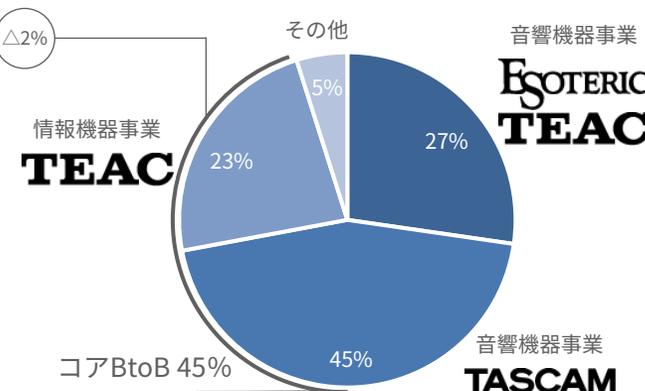
2023/03期 Q2累計 売上収益
7,601百万円



2024/03期 Q2累計 売上収益
7,326百万円

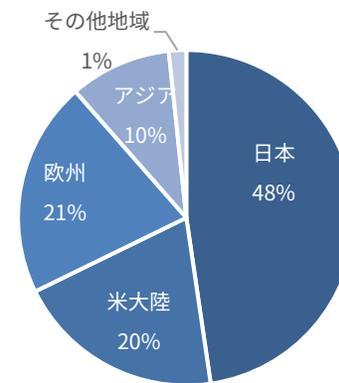
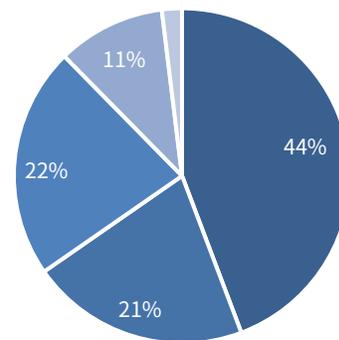
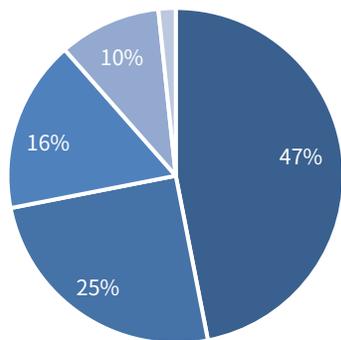


2025/03期 Q2累計 売上収益
6,736百万円



■ 地域別

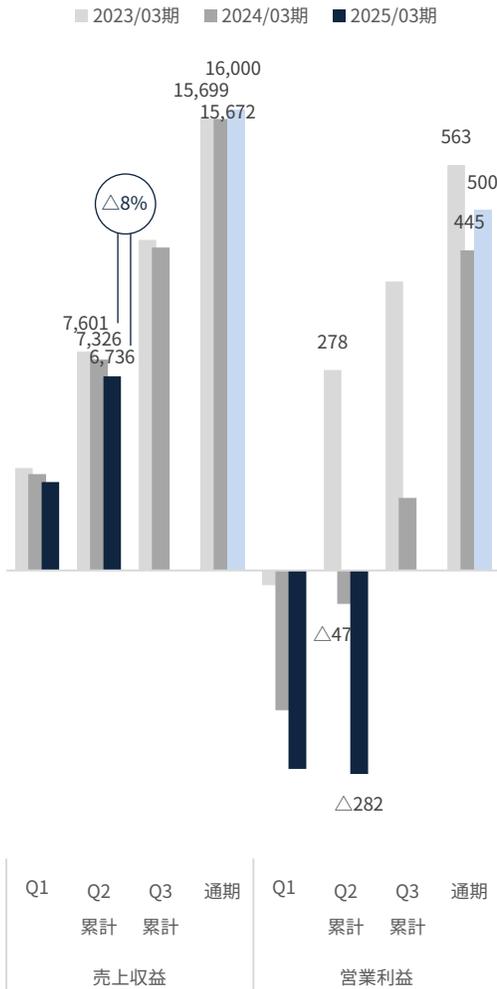
- 米大陸・欧州ともに、プレミアムオーディオ機器は好調だが、音楽制作用オーディオ機器が低迷、産業用光ドライブ事業の縮小も相まって両地域の構成比減



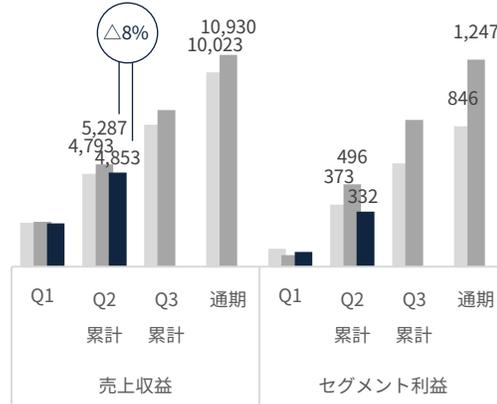
2025/03期 Q2累計 セグメント別業績

(百万円)

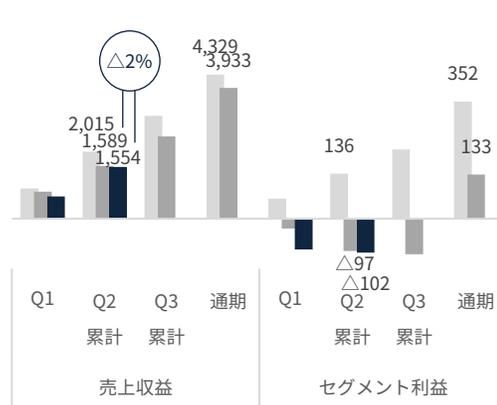
売上収益・営業利益



音響機器事業 売上収益・セグメント利益



情報機器事業 売上収益・セグメント利益



その他

プレミアムオーディオ機器 (ESOTERICブランドおよびTEACブランド)

- ESOTERICブランドは、SACDプレーヤー、ネットワークプレーヤーが好調に推移。TEACブランドは、新製品のUSB DACと欧州でターンテーブルの販売が好調に推移。輸入ブランドは、各ブランドのスピーカーが好調に推移。その結果、プレミアムオーディオ機器全体では前年同期比増収

音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)

- BtoB事業は、音響設備工事件の需要増により主力録音再生機などの販売が好調に推移したが、前年同期に業務用ミキサーの海外での販売を開始したことによる反動減もあり、前年同期並みに推移。BtoC事業は、マルチトラックレコーダーやビデオグラファー向けレコーダーなどの新製品の受注は好調だったが、エントリー向け現行品は市中在庫の販売が進まず低調に推移。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体では前年同期比減収

機内エンターテインメント機器

- 欧州やアジア、中東におけるシステムサプライヤーとのパートナーシップ拡大により引合いが大きく増加、国内では航空業界以外の市場開拓も進んだが、機内サーバーの販売が低調に推移し、前年同期比減収

計測機器

- データレコーダーの出荷が防衛関連向けを中心に好調に推移、生体測定装置の販売も好調だったが、センサーおよびデジタル指示計において、コアとなる半導体市場向けが需要回復の遅れにより低調だったことから、計測機器全体では前年同期比減収

医用画像記録再生機器

- 国内向けの消化器内視鏡向けレコーダーが低調な推移となったが、Full HDレコーダーは堅調に推移、フラッグシップモデルの4K手術画像記録用レコーダーも新たなOEM採用が決まるなど好調に推移し、前年同期比増収

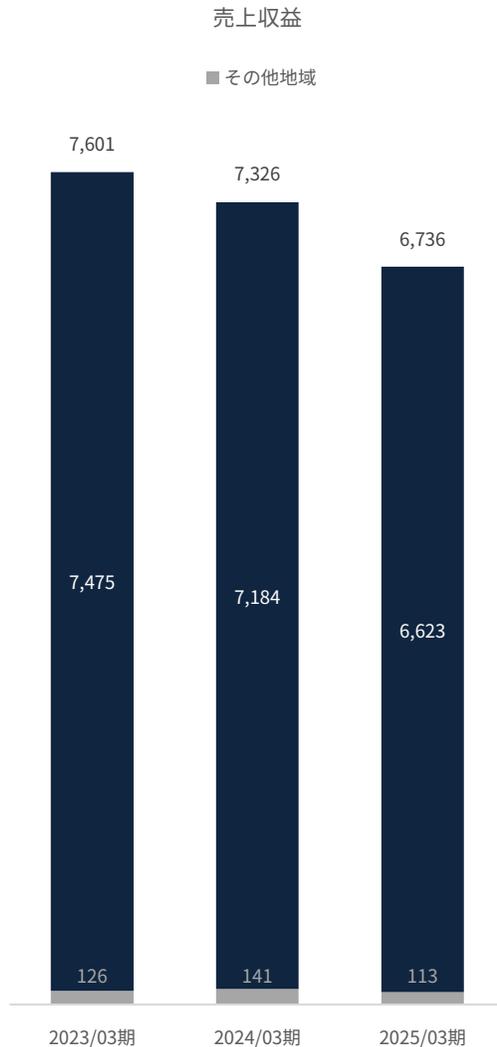
ソリューションビジネス

- 医用向けサーバーの出荷と受託開発案件の受注が好調に推移し、ネットワーク・インフラの保守も堅調だったことで、前年同期比増収

- 前年同期比減収減益

2025/03期 Q2累計 地域別業績

(百万円、+は前年同期比増収、△は同減収)



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - △ 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 医用画像記録再生機器、ソリューションビジネス
 - △ 計測機器、機内エンターテインメント機器



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器
 - △ 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 - △



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器
 - △ 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 - △



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器

2025/03期 Q2累計 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

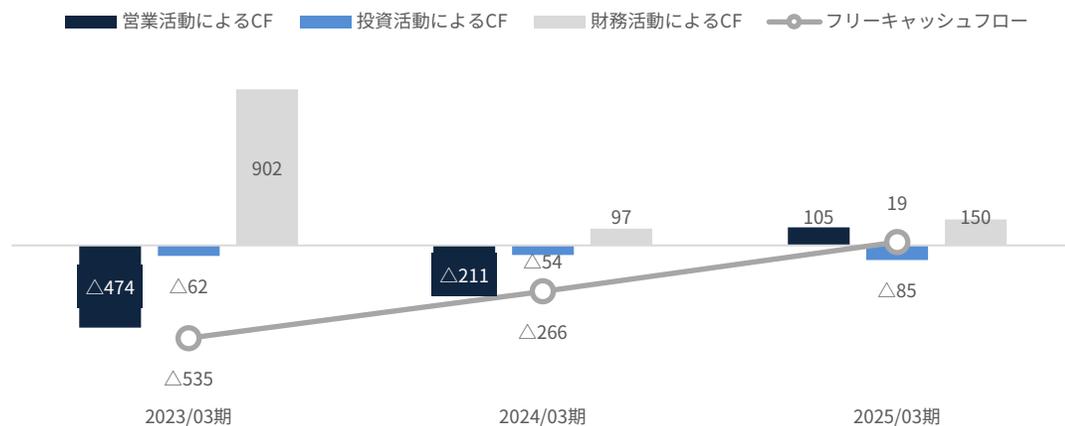
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比△ 145百万円 (△ 4.6%) 減
- 自己資本比率：前年同期比△ 0.8ppt減

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：前年同期比+ 285百万円増の19百万円。営業キャッシュフローは前年同期比+ 316百万円増の105百万円

■ 2025/03期 通期予想は、前回予想（2024年5月発表）を据え置く

	2024/03期	2025/03期 予想	前期比	(百万円)
売上収益	15,672	16,000	+ 328 (+ 2.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 当社が比較優位性を持つ製品の適宜価格改定と併せ、期初発足の新事業体制の下、更なる戦略製品の導入と事業領域の拡大により増収を計画
営業利益	445	500	+ 55 (+ 12.4%)	<ul style="list-style-type: none"> インフレや投資停滞などのリスクに対応すべく、デジタルとリアル両面でマーケティング投資増を計画
税引前利益	5	250	+ 245 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 増益計画
当期利益（損失）	△ 53	200	+ 253 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 黒字転換計画
資本合計	3,574	-	-	
1株当たり親会社 所有者帰属持分	124.08円	-	-	
自己資本比率	30.1%	-	-	
フリー キャッシュフロー	10	-	-	

■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

• TEAC

音元出版主催 AEX2025にて、『UD-507』がネットオーディオ大賞を受賞。その他、ステレオパワーアンプ『AP-701』、マスタークロックジェネレーター『CG-10M-X』も受賞しました。



USB DAC / プリアンプ / ヘッドホンアンプ
『UD-507』

• ESOTERIC

音元出版主催 AEX2025にて、『K-01XD SE』がSuper Audio CD/CD Playerカテゴリにて金賞を、『N-01XD SE』がネットオーディオ大賞を受賞、その他にも多数の賞を受賞しました。



スーパーオーディオCD / CDプレーヤー
『K-01XD SE』



アダム・リース博士と代表取締役社長 英 裕治

米国から宇宙物理学者のアダム・リース博士が、ティアック本社の試聴室を訪問されました。リース博士は、宇宙の加速膨張の観測に関する研究で、2011年にノーベル物理学賞を受賞され、現在もジョーンズ・ホプキンス大学教授として、また宇宙望遠鏡科学研究所の연구원として第一線で活躍されています。そしてご自宅では『Grandioso P1X/D1X/G1X』を愛用されるほどの熱心なオーディオ愛好家です。新しくなったSEバージョンの音が気に入り、自らの耳で確かめたいと、初来日で講演会など忙しい中、愛聴盤のCDをご持参され音楽を楽しんでいただきました。SEモデルでの音楽表現力の向上に大変感動され、日本から帰国されるとすぐに、ご自宅の『P1X/D1X』をSEモデルにバージョンアップされるというご連絡をいただきました。

■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- ・ クリエイター向けBtoCカテゴリ製品の注目モデルを二機種を出荷開始

- ・ マルチトラックレコーディングミキサーModelシリーズのフラッグシップモデル『Model 2400』を新発売

『Model 2400』は、世界中の音楽制作クリエイターから絶大な支持を得ているModelシリーズのフラッグシップモデルです。高音質マイクプリアンプ、1ノブコンプレッサー、3バンドEQ、チャンネルインサート端子、5系統のAUXセンドと4系統のステレオSUBバスなど自宅録音や音楽収録で求められるミキサー機能を搭載。DAWトランスポートコントロールや、COMP/EQとインサート端子を装備したメイン出力、PC画面にメーターブリッジ表示ができる専用アプリなど、自宅録音/音楽収録用途において録音からミックスまでを1台で完結するシンプルなシステムソリューションを提供します。



『Model 2400』

- ・ 32ビットフロート録音、ワイヤレス音声モニタリングに対応
ポータブルフィールドレコーダー/タイムコードジェネレーター 『FR-AV2』 およびオプションの『AK-BT2』を新発売

『FR-AV2』は、これまで多数寄せられたユーザーリクエストをベースとし、動画音声収録におけるワークフロー改善を主眼としてデザイン・開発されたコンパクトなオールインワン・フィールドレコーダーです。当社フィールドレコーダーとしては初の試みとなった「ワイヤレス音声モニター機能（別売のAK-BT2使用時）」を搭載。現代の多忙な全ての動画クリエイターにお勧めするオールインワン・フィールドレコーダーです。



『FR-AV2』

『AK-BT2』

■ 情報機器事業 計測機器

- 新製品 ワイドバンドレコーダー『WX-9000シリーズ』を発表（2025年1月出荷開始）

『WX-9000シリーズ』は、データ記録の確実性、信頼性が強く求められる、主に航空宇宙、鉄道、電力、防衛などの基幹産業における高帯域、および多チャンネル計測を目的とした製品です。従来製品の『WX-7000シリーズ』と比べ、機能・性能などの基本仕様を大幅に改善したことに加え、ランニングコストの低減およびユーザービリティの向上を実現しました。



『WX-9000シリーズ』

財務データシート (IFRS)

		2023/03期				2024/03期				2025/03期						
		(百万円)	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4		
貸借対照表	流動資産		9,042	9,886	9,259	8,351	9,027	8,930	8,969	9,286	9,302	8,914				
		現金及び現金同等物	1,353	1,739	1,221	1,196	1,553	1,086	1,369	1,227	1,487	1,347				
		営業債権及びその他の債権	2,799	2,871	2,809	2,925	2,671	2,938	2,603	3,517	2,480	2,433				
		棚卸資産	4,566	4,998	4,877	3,862	4,512	4,638	4,662	4,214	5,082	4,925				
		その他の流動資産	324	278	352	368	291	269	336	328	254	209				
		非流動資産	1,804	1,720	2,634	2,607	2,673	2,663	2,593	2,585	2,571	2,490				
		資産合計	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700	11,594	11,562	11,871	11,874	11,404				
		流動負債	6,266	6,430	6,161	5,316	6,242	6,018	6,249	5,434	6,051	6,265				
			社債及び借入金	2,904	3,030	2,900	2,042	2,749	2,663	2,965	2,110	2,882	2,985			
			リース負債	232	164	264	448	519	357	359	367	389	380			
			営業債務及びその他の債務	1,759	1,798	1,646	1,281	1,615	1,566	1,571	1,504	1,476	1,412			
			その他の流動負債	1,371	1,439	1,351	1,544	1,358	1,432	1,354	1,454	1,304	1,488			
		非流動負債	1,893	2,172	2,861	2,531	2,474	2,446	2,189	2,862	2,406	2,155				
			社債及び借入金	820	1,189	1,113	1,083	977	829	690	1,478	1,142	1,007			
			リース負債	64	42	870	685	790	913	849	792	710	634			
			長期未払金	833	793	729	689	622	626	573	511	472	428			
			その他の非流動負債	177	149	149	75	86	79	78	81	82	86			
	負債合計	8,160	8,603	9,022	7,847	8,715	8,465	8,439	8,297	8,458	8,421					
	資本合計	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985	3,129	3,124	3,574	3,416	2,984					
		親会社の所有者に帰属する持分合計	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985	3,129	3,124	3,574	3,416	2,984				
		非支配持分	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	負債及び資本合計	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700	11,594	11,562	11,871	11,874	11,404					
	親会社所有者帰属持分比率	24.8%	25.9%	24.1%	28.4%	25.5%	27.0%	27.0%	30.1%	28.8%	26.2%					
損益計算書	売上収益		3,557	4,044	3,879	4,219	15,699	3,349	3,977	3,890	4,457	15,672	3,073	3,662	6,736	
		音響機器事業	2,262	2,531	2,537	2,693	10,023	2,313	2,974	2,787	2,856	10,930	2,241	2,612	4,853	
		情報機器事業	907	1,108	1,075	1,238	4,329	815	774	884	1,460	3,933	672	881	1,554	
		その他	388	405	267	288	1,347	221	229	218	141	809	160	169	329	
		セグメント利益	226	485	345	398	1,453	75	385	384	584	1,427	13	251	264	
			音響機器事業	109	265	249	224	846	69	427	387	364	1,247	90	243	332
			情報機器事業	60	76	72	144	352	△ 29	△ 68	△ 9	240	133	△ 92	△ 9	△ 102
			その他	57	144	24	30	255	35	26	6	△ 20	47	16	17	34
		個別開示項目前営業利益	△ 20	299	123	162	563	△ 194	148	148	344	445	△ 275	△ 7	△ 282	
		個別開示項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		営業利益	△ 20	299	123	162	563	△ 194	148	148	344	445	△ 275	△ 7	△ 282	
		税引前利益	△ 104	138	182	126	341	△ 389	32	179	183	5	△ 398	37	△ 361	
		親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 109	140	150	124	305	△ 400	32	181	134	△ 53	△ 393	49	△ 344	
	キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー	△ 485	11	△ 204	972	294	△ 113	△ 98	239	88	116	0	104	105	
		投資活動によるキャッシュフロー	△ 23	△ 38	△ 29	△ 12	△ 102	△ 36	△ 18	△ 17	△ 34	△ 106	△ 54	△ 31	△ 85	
		財務活動によるキャッシュフロー	550	352	△ 242	△ 992	△ 333	446	△ 349	90	△ 256	△ 69	284	△ 134	150	
		フリーキャッシュフロー	△ 508	△ 27	△ 233	960	192	△ 149	△ 116	222	54	10	△ 54	73	19	

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。